

*売れない時代でも成長する方法はあります！

%company%

%free1%

%free2%

%name_sama%

■中小企業経営者列伝、第10弾。5回シリーズ

社長史名將の軌跡

世界シェアトップを誇る岡本硝子の挑戦

岡本硝子株式会社

第三代代表取締役社長 岡本毅氏

◆第1回 ガラスの時代を牽引する岡本毅氏を形成したもの

岡本少年が社長になるまで

◆第2回 怒涛の警察官僚時代

◆第3回 岡本硝子(株)・三代目社長の紆余曲折

オンリーワン企業への歩み

◆第4回 岡本硝子(株)に打ち付ける逆風

◆第5回 ガラスの時代に向けて

創業 100 周年、そして 200 年企業への道

◆◆第3回 岡本硝子(株)・三代目社長の紆余曲折

オンリーワン企業への歩み

目次

▶警察庁からやってきた三代目の新社長

▶素人社長に対する従業員の戸惑い

▶社長の仕事はナンバーワン探し

▶岡本硝子に訪れた撓倅

▶倒産させない！

▶絶頂期の勢いとジャスダック上場

▶警察庁からやってきた三代目の新社長

1995年12月22日、埼玉県警刑事部長だった岡本氏が、

父・勲氏の後を継ぎ、家業である岡本硝子の三代目社長に就任しました。

このとき、岡本氏は会社の立地や役員についてほとんど知らない状態でした。

就任初日最初の大きな仕事は、金庫を開けることでしたが、
中には現金や人事資料ではなく、
ガラスの調合表やロボットのプログラムが収められたフロッピーディスクがあるのみで、
経営については引継ぎも情報も無く、まったくの手探りの中での新たな船出でした。
年末に迫る中、岡本氏はそんな状態で顧客への挨拶回りに奔走しました。

▶素人社長に対する従業員の戸惑い

岡本硝子の歴史は 1928 年に遡り、工芸ガラス製造を起点に、
船舶用照明ガラスや自動車用ヘッドレンズ、室内照明ガラスなどへ事業を拡大してきました。
オイルショックを経て、技術革新と業界変化に対応し、成長を続けてきました。
こうした中、この挑戦に直面した岡本氏は、組織運営の経験を活かし、
警察時代と同じマネジメントを心掛けました。

重要なのは、従業員が快適に働ける環境を整えること。

従業員の信頼を得るために、

朝の工場掃除や夕方の交代時間に従業員と直接コミュニケーションを取ることを重視しました。

岡本氏は従業員の家族の誕生日まで記憶し、その誕生日に合わせて声をかけるなど、

従業員との関係を深めました。

こうして従業員とのコミュニケーションが増えるにつれ、
半年ほどで自分が決して雲の上の人間ではないということも理解してもらえるようになった。
岡本氏の物語は、経験豊かなリーダーにとっても、
新しい分野への挑戦の重要性、従業員との信頼関係の構築、
そして異なる背景からの知見を組織に取り入れることの価値を示しています。

★異業種からの転職は困難を伴うこともありますが、
岡本氏のケースは、新しい視点が組織に新たな発展をもたらす可能性を示唆しています。
そのリーダーシップは、私たちにとっても、
新たな挑戦を試みる勇気とインスピレーションを与えてくれるものです。

▶社長の仕事はナンバーワン探し

岡本氏は、父の急逝後、自身の日記に

「今日からは“もしオヤジが生きていたら”と考えるのは止めよう。

但し、“オヤジだったらどうしただろう”と考えるのは良い。」と記しました。

岡本氏の経営へのアプローチは、

「岡本硝子のナンバーワンは何か」という根本的な問いから始まった。

岡本氏は、自社の強みを明確にすることで、従業員のモチベーションを向上させました。

また、彼は、顧客の要望に真摯に向き合い、愚直な姿勢で課題解決を図りました。

これは、研究開発型企業としての新しい方向性を示すものであり、

後の「江戸っ子 1 号プロジェクト」の成功へと繋がりました。

技術的な知識に自信がなかった岡本氏ですが、

それは彼にとって「挑戦」する上でのポジティブな要素でした。

彼の考え方は、「無理だと諦めなければ、成功の可能性は常に存在する」というものです。

この考え方は、新たな挑戦への道を開く原動力となりました。

▶ 岡本硝子に訪れた撓倅（ぎょうこう）

岡本硝子は、細やかな日本のモノづくりの伝統に根ざし、

デンタルミラーや反射鏡などの受注増により成長していました。

その努力が認められ、1998 年には「第 2 回千葉県ベンチャー企業経営者表彰」を受賞しました。

そして 1999 年 7 月 5 日、岡本硝子にとって記念すべき日が訪れます。

天皇陛下（現・上皇陛下）の行幸を賜り、社内には大きな興奮が走りました。

宮内庁の配慮で過度な準備は控えられ、行幸の周知は実施前週になってからでしたが、

社内や工場のチェックは精密に行われました。

★行幸当日、陛下が工場に到着された瞬間、岡本氏は周囲の空気が変わるのを感じました。

陛下の知識深さや反射鏡に対する質問の的確さに、岡本氏は驚嘆しました。

71 分間の貴重な滞在時間の中で、岡本氏は「光栄の極み」と感じた貴重な時間を過ごしました。

この出来事は、岡本硝子の社会的地位の確立と、従業員の士気向上に大きく寄与しました。

▶倒産させない！

岡本氏は、363日/年連続連続出勤の陣頭指揮による経営成果が出ていたにも関わらず、その反面深い不安を抱えていました。

彼は「朝起きたら会社がない」という悪夢に苛まれ続けていたのです。

この不安を解消するため、岡本氏は「八起会」を訪れました。

これは、もともと倒産した社長が集う場であり、

倒産を避けるための経営指導も行っています。

八起会での体験から、岡本氏は

「いかなることがあっても倒産させてはいけない」という強い決意を固めました。

彼は、経営者として自分自身、家族、従業員、その家族までを考え、倒産の悲惨さを疑似体験し、新たな覚悟を決めたのです。

▶絶頂期の勢いとジャスダック上場

2000年代初頭、岡本硝子は「第25回発明大賞」「第11回ニュービジネス大賞」を受賞し、製品の需要は供給を遥かに上回るほどでした。

この絶頂期、岡本氏は次なるステップとして「上場」を目指します。

上場の決断は、NHKのドラマ「カンパニー」への憧れと、

経営の諸先輩方のアドバイスが後押ししました。

岡本氏は、上場により企業の持続性が高まると判断しました、

準備期間を経て、2003年12月22日に岡本硝子はジャスダックに上場しました。

上場日には、父の遺影を持った母と共に大手町の野村証券のディーリングルームで、

その達成感を味わいました。

上場は企業の持続性を高め、社員のモラル向上や知名度アップに貢献しましたが、

IR作成の時間負担や短期的業績への期待など、新たな課題も生じました。

岡本氏は、IPOをゴールとせず、企業の持続性を追求し続けていきます。

この事例から、我々には上場の意義とそれに伴う責任の重さが伝わってきます。

次回は、そんな岡本氏に訪れる逆風についてお届けいたします。

執筆：(株)I&C・HosBiz センター はやぶさ編集長 岩下 一智

いかがでしたでしょうか？

~~~~~

次回の、

■中小企業経営者列伝、第10弾。5回シリーズ

社長史名将の軌跡

世界シェアトップを誇る岡本硝子(株)の挑戦

岡本硝子株式会社

第三代代表取締役社長 岡本毅氏

◆第4回 岡本硝子(株)に打ち付ける逆風

は、第635号 24・01・26(金)でお送り致します。

お楽しみに！

~~~~~

■参考図書■Amazon 電子書籍

合本主義「義利合一」の時代がきている

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

*著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本 靖夫

~~~~~

本記事に対するご質問やご感想は下記アドレスまでお願いいたします。

[heart\\_gaia\\_gi@hosbiz.net](mailto:heart_gaia_gi@hosbiz.net)

~~~~~ 次回予告 ~~~~~

皆様のコメントを励みにして、航海を続けていきますので、重ねてご支援ご鞭撻を

よろしくお願いします。

現在連載中の

■中小企業経営者列伝、第10弾。5回シリーズ

社長史名将の軌跡

世界シェアトップを誇る岡本硝子(株)の挑戦

岡本硝子株式会社

第三代代表取締役社長 岡本毅氏

◆第4回 岡本硝子(株)に打ち付ける逆風

は、第635号 24・01・26(金)にお送りいたします。

なお内容は予告なく変更する場合がありますので、ご承知ください。

■LittleBiz 企業・中小企業で働く人々や、経営者が幸せでなければ、

私たちは「世のため・人のため」になれない。

とクルー一同尽力しております。

■平本靖夫、50年の経営支援家人生の集大成 第1弾！

『合本主義「義利合一」の時代がきている』

Amazon kindle にて発売中！！ 2000円

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

最後までお読みいただき感謝いたします。本当にありがとうございます。

では、また次号で元気にお会いしましょう！

◆発信日・・・毎週・金曜日

◆発行責任者・・・Captain 平本靖夫

◆編集長・・・岩下一智・(株) I&C・HosBiz センター 執行役員

マーケット・クリエーター(MRC)・・・CST 開発推進責任者

プロフィール

<https://rinenkeieishi.net/corporate/index.html#inoue>

Facebook

<https://www.facebook.com/yasuo.hiramoto>

ご愛読ありがとうございます

著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本靖夫

プロフィールは

<http://rinenkeieishi.net/corporate/index.html#hiramoto>

◆はやぶさ・に関するお問い合わせ・質問は

メールアドレス：kazu_zohan@hosbiz.net

発行責任者：Captain 平本靖夫、

編集長：岩下一智 MRC